

## CURES Salon

## キリマンジャロコーヒーへの想い

辻村英之

卒論以降8年間、南部アフリカ（特にナミビア、タンザニア）の農村協同組合を追い掛けてきた。90年の卒論調査、92年の修論調査、96年のD論調査、そして88年の観光旅行、93-95年の在タンザニア日本大使館勤務を加えると、既にのべ2年半、南部アフリカに滞在したことになる。幸いなことに、そのアフリカ農協研究は学位にまで至ったが、いかんせん、学会においても一般社会においても、アフリカ農協への興味は薄い。しょせん「自分に関わりのない遠い異国の話」なのである。肝炎、マラリヤ、交通事故、強盗等々、度重なるアクシデントに打ちひしがれながらも、何とか継続させてきた研究の評価が、いつまで経ってもエキゾチックやユニークだけでは、正直言っておもしろくないのである。

本年から研究目的を、少しシフトさせてみた。もちろん、アフリカ小農民の絶対的貧困を解消するためには、農村協同組合育成が不可欠であるという、農村開発論の範疇での視角は変わらない。ただ、アフリカの生産者から日本の消費者へと至る、農産物の流通や貿易の構造を明らかにすることで、これまでのアフリカ農協研究を、日本人に近づけたい。「日本人にとっての身近な話」にしたいのである。幸いなことに、私が住み込み調査をしているルカニ村の協同組合は、キリマンジャロコーヒーの販売農協である。

既に本年の1月末より1ヶ月間、文部省科



▲タンザニアのコーヒー生産者

研費補助金（国際学術研究）「東・南部アフリカにおける食糧生産の商業化がもたらす社会再編の比較研究」（近畿大学助教授・池上甲一代表）の分担者に加えていただき、「タンザニアにおけるコーヒー豆流通の自由化と農村協同組合への影響」の調査を行っている。ここでは、同調査の成果の1部である、流通の各段階におけるコーヒー価格の実態を明示する。

調査時（98年1-2月）の、ルカニ村（高品質豆の生産地）における農協の買付価格（分割払いの第一次支払）は1,200Tshs/kg、民間業者の買付価格（一括払い）は1,500Tshs/kgである。1月末の為替相場1\$=640Tshsで換算すると、民間の買付価格は2.3US\$/kgになる。農協や民間業者が農民から購入したコーヒー豆はすべて、加工工場を経由した後

に、流通公社が2週間に1度開催するオークションにて、輸出業者に販売される。その競売価格(1月28日)は、ほとんどが日本へ輸出される最高品質の北部産A A豆で5.2US\$/kgである。また1月の日本への平均輸出価格(FOB)は4.0US\$/kgである。この時点で生産者価格の約2倍の価格になっている。

さてタンザニアから日本まで、船便で1-2ヶ月かかる。輸入価格は未調査であるが、4月の東京における袋入り煎り豆(モカ又はキリマンジャロ)の小売価格は781円/200gで、4月末の為替相場1\$=132.0円で換算すると、29.6US\$/kgになる。この時点で生産者価格の約13倍の価格になっている。また4月の東京における喫茶店のコーヒー(ブレンド)1杯の価格は412円、為替相場と1杯10gで換算すると、312.1US\$/kgになる。なお喫茶店におけるキリマンジャロコーヒー

(ストレート)の価格は、ブレンド価格より50円程度高いのが普通である。この時点で生産者価格の約136倍の価格になっている。

以上のコーヒー価格の実態、特に生産者価格と消費者価格の格差を題材にするだけでも、一次産品問題や南北問題を語る事ができるだろうし、オルタナティブ・トレードの可能性を探ることができるかもしれない。非常に興味深い分析対象に出逢うことができ、嬉々としている。

4月に金大に赴任したばかりで、講義とその準備等で精一杯の現在は、なかなか同研究を進めることができないが、現場の視点を最大限に尊重する自分の研究スタイルを貫くためにも、現地調査(今夏は8月21日~9月10日を予定)だけは、なんとか継続させたいと考えている。

(金沢大学経済学部講師)

## 地域経済文献情報

"Shiota, Naoki", On the Potential NNP and Disutility of Pollution(六甲台論集[経済](神大), 43(3), 1996, 38-44)

"Sukardjo, Sukristijono", "The Relationship of Litterfall to Basal Area and Climatic Variables in the Rhizophora mucronata Lamarck Plantation at Trilih, Central Java, Indonesia"(東南ア研究(京大), 34(2), 1996, 424-432)

浅井 修平, 北陸におけるグループウェアの活用事例(北陸経済研究[北陸経済研究所], 241, 1998/6, 1-12)

岩城 剛, アフリカ経済の発展と中小工業の貢献(地域分析(愛知学院大学), 36/1, 1998/1, 1-8)

岩城 剛, アフリカの構造調整と貿易振興政策(地域分

析(愛知学院大学), 36/2, 1998/3, 1-9)

岩田 勝雄, 田 暁利, 中国における外資導入政策の展開と就業システムの変容(国際地域研究(立命館), 12, 1998/3, 67-94)

上野 勝代, デンマークのコ・ハウジングの評価(海外社会保障情報, 116, 1996, 24-34)

白井陽一郎, EUにおける近代国家の変容と地域政策の展開(ソシオサイエンス(早大)(2), 1996, 111-127)

内木 哲也, 売買行動に基づいた価格形成シミュレーション(経営論集(東洋大), 43, 1996, 37-47)

大西 隆, 新しい全国総合開発計画について(講演要旨)(日経研月報, 239, 1998/5, 2-10)